

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境2016年版, CASBEE 建築環境2016年版

■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)パルシステム熊谷センター新築工事	階数	地上2F
建設地	熊谷市樋春字袋田1223番3	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	250 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2018年9月19日
敷地面積	33,000 m ²	作成者	(株)INA新建築研究所鈴木邦彦
建築面積	12,572 m ²	確認日	2018年9月19日
延床面積	21,863 m ²	確認者	(株)INA新建築研究所鈴木邦彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。 太陽光照明、太陽光発電システムや、高効率の設備機器を採用するなど、エネルギー面にも配慮している。		その他
Q1 室内環境	Q2 サービス性能 非常用発電機、災害時使用可能な有線電話・FAX・防災無線などを採用、また、補修必要間隔の長い配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。視線を遮らない樹木の配置などにより防犯性に配慮している。空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー 太陽光照明、太陽光発電システム、高効率の設備機器を採用するなど、エネルギー面にも配慮している。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。 ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。 適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE埼玉県 重点項目シート






■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)パルシステム熊谷センター新築工事	BEE	1.5	BEEランク	★★★★
------	----------------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.8	+	2.6	=	6.4	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.8
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.8
<配慮した内容を記述> 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。 空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。			

: 入力欄

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
(仮称)パルシステム熊谷センター新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.0	
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル				-	-				
1.2 遮音				-	-				
1 開口部遮音性能				-	-				
2 界壁遮音性能				-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-				
1.3 吸音				-	-				
2 温熱環境									
2.1 室温制御				-	-				
1 室温				-	-				
2 外皮性能				-	-				
3 ゾーン別制御性				-	-				
2.2 湿度制御				-	-				
2.3 空調方式				-	-				
3 光・視環境									
3.1 昼光利用				-	-				
1 昼光率				-	-				
2 方位別開口				-	-				
3 昼光利用設備				-	-				
3.2 グレア対策				-	-				
1 昼光制御				-	-				
3.3 照度				-	-				
3.4 照明制御				-	-				
4 空気質環境									
4.1 発生源対策				-	-				
1 化学汚染物質				-	-				
4.2 換気				-	-				
1 換気量				-	-				
2 自然換気性能				-	-				
3 取り入れ外気への配慮				-	-				
4.3 運用管理				-	-				
1 CO ₂ の監視				-	-				
2 喫煙の制御				-	-				
Q2 サービス性能					0.44			3.7	
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ				-	-				
1 広さ・収納性				-	-				
2 高度情報通信設備対応				-	-				
3 バリアフリー計画				-	-				
1.2 心理性・快適性				-	-				
1 広さ感・景観				-	-				
2 リフレッシュスペース				-	-				
3 内装計画				-	-				
1.3 維持管理				-	-				
1 維持管理に配慮した設計				-	-				
2 維持管理用機能の確保				-	-				
2 耐用性・信頼性				3.2	0.50			3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				3.8	0.20				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		節水型器具採用、可能な限り配管系統を区分、中水利用、受水槽に蛇口を設置		5.0	0.20				
3 電気設備		非常用発電設備設置、重要設備系の受電設備二重化、電源設備等の地下空間への設置を回避		5.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備		光ケーブル、マルチケーブルなど通信多様化、精密機械の地下空間への設置を回避、災害時使用可能な有線電話・FAX・防災無線設置、無停電装置設置		3.0	0.20				

3 対応性・更新性			4.2	0.50		-	4.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.05	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック採用	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.56		-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.03		-	5.0
BPI _m =0.69							
2 自然エネルギー利用			4.0	0.12		-	4.0
太陽光照明、太陽光発電システムを採用							
3 設備システムの高効率化			4.2	0.61		-	4.2
[BEI][BEI _m]= 0.68							
4 効率的運用			2.0	0.24		-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50		-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.6
1 水資源保護			3.5	0.20		-	3.5
1.1 節水			4.0	0.40		-	
自動水栓や節水型便器を過半に採用、擬音装置を採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	トイレ排水に中水を利用	4.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60		-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-	
-							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20		-	
断熱材:屋根断熱材、木材・プラスチック再生複合:ウツデッキ、屋内用品:間伐材木ルーバー							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20		-	
躯体と仕上材が容易に分別可能、OA707を採用							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.6
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33		-	3.8
LCCO2排出量を参照値より抑制							
2 地域環境への配慮			3.7	0.33		-	3.7
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25		-	
燃焼機器の採用なし							
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
夏期卓越風向に対する面積比率40%未満、隣棟間隔比率0.5以上、地表面対策率30%以上45%未満							
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	駐車スペース、荷捌き用駐車施設の確保、出入口への配慮	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類や量を推計し、室内にゴミの分別回収ボックス、室外にストックスペースを計画	5.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		1.0	-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」チェックリストの過半を満たし、広告物照明がない	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	